

事例 : No. 6

プロセッサの導入による作業効率の向上と雇用環境の改善

1. 林業事業体等名 カネカ わたなべけんざいかぶしがいしゃ 渡辺 建材 株式会社 (新潟県村上市)

2. 林業事業体の概要

①年間素材生産量 14,226m³ (うち 間伐の占める割合60%)

②生産する主な樹種 スギ、広葉樹

③素材生産に関わる作業員数 7名 (1セット2~7名×1~3セット)

3. 取組の特長

①生産性向上への取組

従来は国有林の請負を主に行っていたが、事業拡大に向けて施工管理職員2名+作業員2名を増員し、民有林施業にも取り組むこととした。更に林業機械の導入も加わったことで生産性が向上し素材生産量が大きく伸びることとなった。

②柔軟な作業人員の配置 (オールマイティーな人材づくり)

作業員全員がバックホウ、プロセッサ、グラップル、フォワーダの操作が可能となるよう社内で行い組んだ結果、班編成にこだわらず現場状況に合わせて臨機応変に人員を配置することが可能となった。

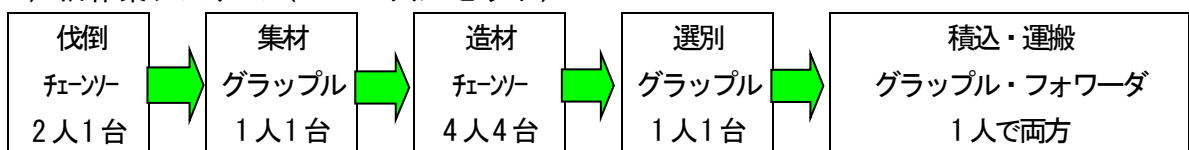
4. 具体的な内容

①施業方法 : 間伐 (定性間伐、列状間伐 (2伐4残))

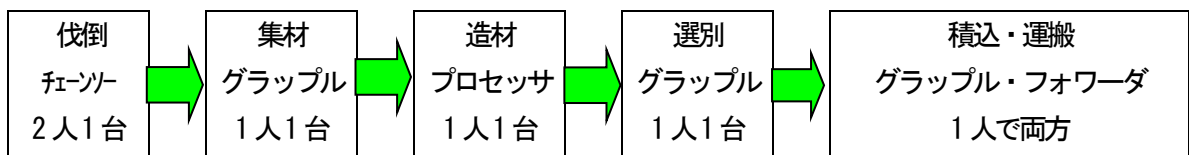
②使用機械 : プロセッサ1台 (0.45m³級)、グラップル4台 (0.45m³級)、
フォワーダ1台 (6t積)

③作業システム :

1) 旧作業システム (2~5人/セット)



2) 現行作業システム (2~7人/セット)



④森林作業道の作設方法 :

- ・持続的な森林整備と集材の効率化を目指し、作業道は250~300m/haを目途に作設。
- ・横断排水箇所には上流側に溜樹を設けることで流速を減じ、丸太暗渠を伏せ込んで流下させている。

⑤労働生産性及び素材生産コスト：

	旧作業システム	新作業システム
利用間伐	労働生産性 ($\text{m}^3/\text{人}\cdot\text{日}$)	労働生産性 ($\text{m}^3/\text{人}\cdot\text{日}$)
	5.9	7.0

- ・プロセッサの導入により、労働生産性を約18%向上し、生産コストが削減され、素材生産量が増加。

5. 今後の取組等

- ・作業員が安心して勤められるよう日給制から月給制に移行中（有給休暇の取得も含む）。作業効率の向上によって賃金が上がり、会社の方針も変えることが可能となった。
- ・持続可能な森林整備を目指し、森林組合との共同での経営計画を樹立するなど、森林施業の集約化に取り組むことで地域の要望に即した森林整備と安定した地域の森林経営を担っていく。



【プロセッサによる枝払い・玉切り】



【グラップルでフォワーダへ積込】

【問い合わせ先】

所属：新潟県農林水産部経営指導係
 役職・氏名：主任 引野 貴仁
 連絡先：025-280-5326